

(様式1)

「絆の作り手育成プログラム研究指定校」実績報告書(1年次)

1 学校名等

学 校 名	亀岡市立蕪田野小学校							校長名	鶴尾 直広	
所 在 地	〒617-0852 亀岡市蕪田野町佐伯源ノ坊18 電話 0771-22-0631 FAX 0771-22-0797									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合 計	教職員数	
学 級 数	1	1	1	1	1	1	2	8	16 ※校長・教頭を含む	
児 童 数	15	12	12	18	7	14	5	83		
連 携 先 (文化財所有者等)	国指定重要無形民俗文化財「佐伯灯籠人形浄瑠璃」									

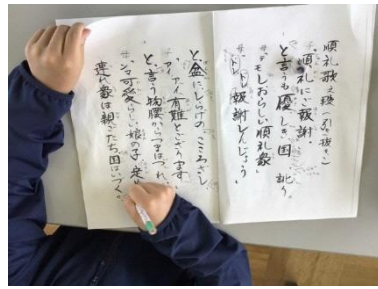
2 研究校の概要

客観的な学力実態に基づいた「学力向上プログラム」のもと、「授業改善」「個に応じた指導」を全校体制で進め、全教職員が共通理解のもとに組織として学力向上に取り組んできた。最後まで粘り強く課題に取り組む力を付けさせることで、児童の学習意欲の高まりが感じられ、令和3年度の府学力診断テストでは、府の傾向とほぼ同じであった。他のテストの結果からも、基礎的・基本的な問題の正答率が高い。今後さらに活用の力を向上させるために、より一層言語活動を充実させ、「ことばの力」の育成を図っていく。

本校の校区の特色として、学校と地域とのつながりが深く、地域の教材や地域の人から学ぶ授業を行っている。地域の伝統文化である国指定重要無形民俗文化財「佐伯灯籠人形浄瑠璃」には、これまでは希望者のみが夏祭りで人形浄瑠璃を上演してきた。今回「絆の作り手育成プログラム」の指定を受け、今後どの児童も地域の伝統文化に触れる機会が持てるようカリキュラムを整理し、4年生の「総合的な学習の時間」に位置づけ、練習・発表会を行うようにした。(※新型コロナウイルス感染症予防対策のため、夏祭りは中止。)さらに、6年生では国語科における音読を重視した研究を進展させ「狂言」に取り組み、学習発表会でその成果を発表した。(※例年は、オープンスクールと称し全校、保護者、祖父母、地域の皆様に発表し本校の伝統となっている。)これらの学習は、我が国の伝統文化への理解を深めるだけでなく、児童の表現力を高めることや、地域の人から学び地域とつながる学習として大きな成果を得ている。

3 主な研究活動

6月末から7月中旬にかけて、4年生の総合的な学習の時間に計10回の練習を行い、延べ9名の浄瑠璃保存会の技芸員にお世話になった。前半は、教本をもとに読みの練習を行い、三味線に合わせた抑揚のある語りを習得した。後半は、語りに合わせた人形遣いを教わり、30センチほどの人形の手や首を操作し、語りに合わせた豊かな表現を楽しんだ。授業以外でも家族に向けて教本を読んだり、抑揚の付け方を教わったりすることで、技能を深めるだけでなく、家庭で大人から子どもへ文化の継承が促進されていることを感じた。本番の上演は、新型コロナウイルス感染症予防のため、夏祭りが中止されたが、次年度の主役となる3年生に成果を披露することで、次年度への意識付けができた。



4 今年度の研究の成果と検証

【成果】

- (1) 体験的な活動を工夫することで、児童の学習意欲が高まり、学力の向上が見られた。また、特に文章や情報を正確に読み解く力に育ちが見られ、人とつながる力や自分の言葉で思いを伝える力に変容が見られた。
- (2) 言語活動が充実することで、児童が学びの主体者となり学習が進められた。浄瑠璃の独特な古典表現に思いを巡らせ、考えを整理し、わかりやすく伝える表現を生み出すことができた。
- (3) 豊かな言語活動を通して、他者と対話することに楽しみを感じながら学習することができた。また、自信を持って発表することができ、自尊心が高まった。

5 今年度の課題

本校では、これまでに取り組んできた活動を「絆の作り手育成プログラム」として整理した経緯がある。文化財との連携を7月に終えてから、PBL研修を受けた為、今回の学習の中にPBLを取り入れることができなかった。

次年度以降、国指定重要無形民俗文化財「佐伯灯籠人形浄瑠璃」を対象に、児童自らの課題意識を学びの中心に据え、想像力をはたらかせ、主体的な課題解決ができるよう学習を進めたい。

6 事業終了後の構想

人権教育を教育活動の基盤に据え、PBLの手法を教科・領域の学習に取り入れながら、培った知識・技能を思考に活用し、発信する力の育成を図っていく。PBLを本校学校教育目標の達成に向けた手法の一つとして位置づけ、互いを高め合う仲間づくり・集団づくりの進め方についての研修や実践に努め、その成果や効果を他校に波及させていく。